

追憶のアリラン

劇団きづがわ第72回公演

(第40回大阪春の演劇まつり)



作・古川 健 / 演出・林田時夫

舞台は、日本の敗戦を迎えた朝鮮半島の平壤府・地方法院検事局。
解放に沸く朝鮮人民と、帰国を阻まれる4人の検事たち…。
或る日本人検事と朝鮮人事務官との正義と良心に満ちた友情を
哀愁を帯びた朝鮮民謡『アリラン』に乗せて贈る感動のドラマ！

◇ 2016年6月18日(土) 11:00 & 16:00 / 19日(日) 14:00

◇ リバティおおさかホール (大阪人権博物館) JR『芦原橋』徒歩8分

◇ 前売券 一般 3,000円 シニア(65才以上) 2,500円
U30 & 障害者 2,000円 夫婦(2人) 5,000円

(当日はいずれもお一人500円UPとなります)

追憶のアリラン

ものがたり

昭和二十八年、男が一人晩酌を傾けている。この物語の主人公・豊川千造である。妻の咲子が二本目の銚子を持って来たとき、朝鮮戦争の停戦を伝えるニュースが流れる。やがて千造は懐かしげに『アリラン』を口ずさむ。彼ら夫婦の脳裏に浮かぶ一人の男、かつての千造の部下であった朝鮮総督府平壤府の地方法院検事局へ赴任した日、さらに、昭和二十一年、日本の敗戦前後の日々の回想へと変わってゆく……

昭和二十一年八月。日本の敗戦が刻々と迫り、ソ連が対日参戦、風雲急を告げる朝鮮半島。解放に沸く朝鮮人民、慌ただしく逃げ帰るを急ぐ日本人たち……。権勢を振るってきた憲兵隊長も帰還列車に飛び込む。だが、総督府の公人たちは、人民裁判委員たちに帰国を阻まれる。検事局の検事たちも潔く踏み止まる。中垣、緒方、千造と、若い朝鮮生まれの川崎である。

そんななか千造の事務官・朴は、子供の高熱の為に列車に乗り遅れた千造の妻や子らを、三八度線を越え京城まで送り届ける役目を買って出る。

やがて、検事たちの罪状を暴き、蔽罰に処そうと燃えるソ連に亡命していた金や、抗日ゲリラで復讐に燃える李らの取り調べが始まる。そこへ、千造によって家族と財産のすべてが奪われたと訴える、崔親娘が現れる。

だが、解放・光復に沸いた朝鮮半島も、米ソ2大大国によって分断されることが次第に露わとなってくる。

果たして、千造たち4人の検事たちの運命は？……
朴忠男は、千造の妻・咲子や子らを無事京城まで送り届けることができたのか？そして、彼の次なる行動は？……

この物語は、日本の植民地とされ、満州事変から日中戦争、侵略の拠点となった朝鮮半島にあって、正義と良心を貫こうとした検事と、有能な朝鮮人事務官との国境を超えた友情のドラマであり、今、歴史認識をめぐって対立する日・韓の在り方を問うものです。



キャスト

豊川千造（平壤府検事）	中屋 光雄
妻・咲子	林田 彩
中垣首席検事	小森 健司
緒方次席検事	中山 講一
川崎予備検事	坪井 正太
荒木大佐憲兵隊長	河原 正隆
朴忠男（朝鮮人事務官）	河塚 俊哉
金公欽（人民裁判委員）	山田 一己
李孝三（人民裁判取調官）	寺島 由浩
任白龍（看守）	島本 拓治
崔承化（老人）	山本 惣一郎
崔仁恵（その娘）	西尾 純子

スタッフ

演出	古川 健
美術監督	和田 雅子
大道具	三村 省三
照明	新田 三郎
効果	照島 佳宏
衣装	橋野 悦子
制作	和名 雅子
	椎名 千浪
	橋本 依子
	池田 広美
	山村 八子

劇団きづがわ『追憶のアリラン』を！

「劇団きづがわ」は大阪に根を下ろし、永年優れた演劇活動を続けてこられました。私も15年来、毎回観劇させてもらい、いつも迫力ある舞台に感動しています。今回の『追憶のアリラン』は、敗戦直後の朝鮮半島を舞台に、日本の植民地支配の問題や日本軍国主義の民族差別の実態、また敗戦後の大混乱などを描いており、平和の大切さを深く考えさせる力作です。北東アジアの軍事的緊張が世界の注目を集めている現在、しかもその中で安倍政権が戦争立法を強行可決し、日本を再び戦争する国にしてしまおうとしているときに、実に時宜になかった公演です。アジアに、世界に、平和をと願っておられる多くの方々が観劇してくださいをお勧めします。

鯨坂 真（関西大学名誉教授）さん

リバティおおさか略図



リバティおおさか（大阪人権博物館）
〒556-0026 大阪市浪速区浪速西 3-6-36
TEL:06(6561)5891